

	号外	定価1部2円	No.2578 2020年 12月7日	コロナ克服のためにも勤務意欲確保は重要。知事が職員に謝意と改善姿勢を示す。引き続き改善を訴えよう。
	昭和34年4月1日 第3種郵便物認可	発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県内 岩手県職員労働組合		

12.3達増県知事との意見交換

知事 県職労との対話は大事示す

現場の声を上げて欲しい／職員体制確保に努める
 ＝コロナ対策・全職員に謝意と激励＝



職場課題を説明する県職労役員（立席は大崎委員長）

12月3日、達増県知事と県職員を取り巻く課題の意見交換を行った。

①新型コロナ対策に従事する労働環境の課題に関し、「現場で職員が懸命に務めを果たしていることに御礼。感染した職員に対するケアに努める」、「職員体制を確保することが大事。現場の声を上げていただいて、適切な職員体制が確保できるようにしていく」との姿勢を示したことから、職員体制確保と職員へのケア対策を要請した。

②職員の働きやすい環境の整備では、子育てとの両立支援の充実、遠距離通勤や居住環境改善、赴任に伴う自己負担の緩和（定期大会での代議員発言を参考）、職員体制確保を要請。「職員の幸福度を高める働き方を組織的に進める」、「仕事と子育てとの両立に向け意識改革に取り組む」、「行政需要に応じた定数配置に取り組む」としたうえで、「引越しなど、住居や通勤に苦勞する例は今日の話で改めて感じた。通勤・住居などきちんと配慮していく」と認識を示した。

知事から「知事の役割として職員との直接の対話、県職労との対話は大事にしていく。今後よろしく願います」との見解を引き出し、継続した意見交換を確認した。

締めくくりとして、知事は「コロナ感染症対策に関し、あらゆる部局で職員は本当に大変だと思う。コロナ対策をやり遂げると、住民福祉・幸福度向上につながる。大変であるが、頑張って乗り越えていこう」と職員に対して激励の所感を示し、意見交換を終了した。今後とも実態を県当局に訴えながら、職場環境の改善に全力を挙げる（詳細は裏面）。



見解を示す達増知事

達増知事との意見交換概要



知事との意見交換は県庁第1応接室で約25分間行われた。(奥) 達増知事・(手前) 県職労

○ コロナ対策に従事する職員の労働環境について

知事：患者等への対応など、県の現場が非常に厳しい対応を迫られていることを痛感。現場で職員が懸命に働いていることに御礼を申し上げる。県職員もコロナ感染する場合もあり、感染者が出た時の職場対応や職員へのケアなどは留意していかなければならない。

忙しくて職員が足りない、職員体制を確保することは大事。総務部も様々配慮しているが、現場の声、こういったところが大変だなどの声が大事。上げるべき声は上げていただき、適切な職員体制が確保できるようにしていきたい。

県職労：職員にも感染者が出ており、職場では様々な不安も。体制確保や職員のケアを改めて要請する。



基本姿勢示す・達増知事

○ 職員の働きやすい職場環境の整備について

県職労：職場環境の改善について、赴任地の住居が不足し遠距離通勤の実態も。公舎整備が必要であるし、引っ越しも費用が高騰し、特に若い職員から費用が払えないとの声も（定期大会の代議員発言から）。職員負担を解消し、安心して働ける職場環境の確保を。併せて子育て・仕事の両立支援、人員体制の確保を要請する。

知事：職員の幸福度を高めるような仕事をしていかないと県民の幸福度を高めることはできない。幸福度を高める、働き方を良くしていくことを制度的・組織的に推し進める。

引っ越しや住居の面など、岩手全体として若い世代向け住居は少ない。住居、通勤に苦勞する例があるのは今日の話で改めて感

じた。通勤や住居とかきちんと配慮していきたい。

来年4月から県庁内保育施設を開設。仕事と子育てのバランスをみんなで意識改革を進めていかなければならない。人員確保は、行政需要に応じた適切な定数確保に取り組んでいく。

○ 継続した意見交換の実施／意見交換の総括発言

知事：知事の役割として職員との直接の対話、職員団体（県職労）との対話は大事にしていきたい。

こちらこそよろしく願います。新型コロナ対策の呼びかけで盛岡市大通り商店街を何軒か歩いた。やはり大変な仕事と感じた。保健福祉部門はもちろんだが、あらゆる部局も本当に大変だと思う。しかし、これをやり遂げ、岩手のいいものを守ることで、地域振興や住民福祉の向上につながり、幸福度の向上につながる。大変だが、今徹底することに意義がある。頑張っ
て乗り越えていきましょう。